

NO.10



あやめ通信



大人版
1月号

小説

波木銅『万事快調(オール・グリーンズ)』

秋川滝見『ひとり旅日和5 幸来る!』

佐藤愛子『思い出の屑籠』

西加奈子『わたしに会いたい』

青羽悠 他『嘘をついたのは、初めてだった』

ブレディみかこ『リスペクト』

小西マサテル『名探偵じゃなくても』

佐伯泰英『晩節遍路』

加藤シゲアキ『なれのはて』

実用書

笹倉明『ブッダのお弟子さんにつぼん哀楽遊行』

養老孟司『なるようになる。－ぼくはこんなふう生きてきた－』

Hanabira工房『ちいさな世界づくり』

ちびあかぼん『本物みたいなミニチュアスイーツ』

小澤竹俊『もしあと1年で人生が終わるとしたら?』

多井学『大学教授こそこそ日記』

↑先月の新刊の一部を紹介します。↓今月のおすすめの1冊を紹介します。

今月の1冊

伊予原新

『月まで三キロ』



『「知ってました？」運転手が、また言った気がした。「この先にね、月に一番近い場所があるんですよ。」』(伊予原新『月まで三キロ』P27より)

本書は表題作の「月まで三キロ」をはじめ、理系的な要素を含みながらも人の感情が濃厚に描かれた6つの物語の短編集です。ちなみに、実際の月と地球との距離はおよそ38万キロメートルで、しかも年に数センチずつ地球から遠ざかっているとのこと。

読了後に頭に浮かんだのはフィボナッチ数でした。0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, ...と、その数と1つ前の数の和が次の数になるという数列で、自然界の現象に数多く出現するそうです。花卉の枚数やひまわりの種の個数、パイナップルの螺旋の数などはフィボナッチ数だそうです。初めてフィボナッチ数を知ったときの、一見無機質な感じのする数式と、誰が意図して作ったでもない自然界との繋がりに感じたロマンのようなものを、本書では6つそれぞれの話で感じられました。

学文ニュース クリスマスファンタジー終了

17日の日曜日をもってクリスマスファンタジーを終了いたしました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

今回の図書館職員体験では、インドの図書館学者ランガナタンの提唱する五法則の内、第3法則の「すべての本に、その読者を」を意識してもらい、天体の棚だけでなくキャンプや小説など様々な棚からテーマに関する本を選んでいただきました。

また、茶話会には東京理科大学の学生さんにもご参加いただき、図書館や本の話などで大いに盛り上がりました。表面の今月の1冊も、そのとき話題にあがった本を紹介させていただいております。



↑「冬は星が綺麗だから」と星や星座に関するコーナーを作ってくれました。

↑先月学文であったできごとなどを紹介します。 ↓今月の学文の予定を紹介します。

1月のカレンダー

定休日：毎週月曜日

開館時間：10:00～18:00



年末年始休み

12/30(土)～1/5(金)

休館中の返却は正面玄関の

返却ポストまでお願いします。



二十歳を祝う会

1/7(日)

ご出席の皆様、誠にありがとうございます。

ございます。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			
	休館日					